

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ココノハーツ名古屋瑞穂教室

公表日 2025年7月11日

利用児童数 19人

回収数 12人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	2				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1				レイアウトの工夫で無理なく子供たちの動線を確保するよう心がけています
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	1				視覚的な区分けや掲示で動線の工夫をしていく
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	1				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	3				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	2				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	2			プログラムを事前に知りたい。	今までも行っておりますが、今後紙のおたよりでも発信します
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	3	1			おでかけプログラムに図書館や児童館を取り入れていくよう計画します
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	1				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2			まだ利用し始めたばかりで、良くわかりません。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	2				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	6			まだ利用し始めたばかりで、良くわかりません。	保護者との連携強化のため開催しましたが参加者が少なく、日程や時間帯が合っていなかった可能性があり、今後は参加しやすいように個別での開催など柔軟な形にしてい

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1			事前にプログラムを知りたい。	今までweb等で発信しておりますが、今後紙のおたよりでも発信します
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	3	1		契約書に記載があるため知っているが、訓練を実施しているかまでは把握していない	頻度が少ないのと周知不足のため改善の必要ありと思われます
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	4	1		把握していない	頻度が少ないのと周知不足のため改善の必要ありと思われます
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	2	1			策定された安全計画の具体的なシミュレーションを定期的に実行する
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	4			なったことがないのでわからない	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	2				家庭、学校に次ぐ第三の居場所として安心できる空間・時間を提供すべく心がけております
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	2			毎回とても楽しみにしています	ありがとうございます。そう言っていただけのために尽力しております
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	1			子どもの成長を促していただき、理解してくださる環境があることが有り難く、とても助けられています これからよりしくお願いいたします 学校の宿題は終わらせてきて欲しい。	ありがとうございます。保護者とも学校の先生とも違う目線で子供たちの将来を考えて行動しております。宿題をメインには考えておりませんが、相応の努力はいたします

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 7月 11日				
事業所名		ココノハーツ名古屋瑞穂教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		レイアウトの工夫で無理なく子供たちの動線を確保するよう心がけていく	備品が溢れて子供の気が散ることがないように留意する必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		相談室他別室を用意し、年代や目的によって使い分けしている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		週単位でのスタッフ個別の報告をまとめ、毎翌週に反映させている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		本部スーパーバイザーとの密な連携により客観性を保つことを心がける
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			情報の発信方法が十分に伝わっていなかったことが考えられる 今後は個別LINE等で発信し、保護者との認識の共有を深める
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎朝のミーティングによりその日に来所する子供たちの特性と対応について共通理解を推進していく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		五領域が偏りなく盛り込まれているか、曜日による偏りがないか、を毎月チェックしている	子供の人数や組み合わせによって有効かどうかを当日朝に改めて再検討することもある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	児童発達支援を含む多機能型事業所であることで一貫した支援計画を行えている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		部会等にも積極的に参加し、他事業所や他機関との連携を深める
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		おでかけプログラムに図書館や児童館を取り入れる
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		LINEを用いて細目に連絡を取っている	実際に会った面談を増やすよう心がけている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		引き続き保護者会や授業参観など親子でも参加できる機会を増やす
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			随時相談できる環境・時間を作り、保護者への面談までの敷居を下げるようにする
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会時にはカラーセラピーなどのイベントも準備して参加を促していく	集団では難しいことも多く、個別の保護者面談も計画していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	1		スタッフのITリテラシーの向上、モラルの理解・周知を行う
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	テナントでの営業のため、多数の外部の方を招き入れることは難しい	他のテナント様への協力要請が必要
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2		頻度が少なく、情報発信不足もあったため、定期開催を今後行う予定
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココノハーツ名古屋瑞穂教室		
○保護者評価実施期間	2025年 5月 21日 ～ 2025年 6月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	2025年 5月 21日 ～ 2025年 6月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 7月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高校生から年少児まで、幅広い年齢層の子供たちが、自然な形で関わりあえるような環境で、集団療育ならではの他者との関わり方において日々実践的に指導することができる	異年齢の交流を大事にし、お互いの立場を生かした関わり、安心できるような取り組みの中で子供同士が協力しあうことをバックアップし、お互いが認めあえるような言葉かけや対応を進めている	他者との関わりの中で生じるトラブルに適切な対処は一体何なのか？性格も特性も違う子供たちにおいてそれぞれが納得できるような気持ちの抑え方や表現の仕方を一緒に考えていきたい
2	子供たち一人ひとりの特性を理解し、安心できる環境とスタッフ対応を心がけている	子供たちの日々の状態を把握し、それぞれに合ったタイミングでの声掛けや活動を行うことで自分らしく過ごせる場所作りと、そのためのスタッフ間での情報共有、支援会議を密に行っている	それぞれの子供たちの心の拠り所の一つになるような支援を引き続き行う また何をもって拠り所になるかは子供たちによって違うので子供たちが自分らしさを発揮しながら成長していけるように支援していく
3	時にはグラフィックデザインやギターを用いて有り体の福祉に囚われない自由な発想を重視したスタイルで療育を行っている	将来的に子供一人ひとりが主体性を持った考え方や行動ができるためのヒントになるべく指導をしていく	集団の中においても誰もがオンリーワンであることを理解して自信を持った生活ができるよう支援する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故対応、災害対応などの緊急対応マニュアルなど保護者の方々に対して対応方針が十分に伝わっていないという課題がある	社内でのマニュアルは用意してあっても外部に伝えることは契約時にしか行っていないかったことに起因する	対応内容を明文化して配布 保護者との情報共有の強化をしていくため、紙ベースの「おたより」やプログラムとして避難訓練を行うことを明確に盛り込むなどして周知に励む 保護者との面談時に一言付け加える
2	教室内で完結するプログラムが多く、お出かけメニューがあまりない	安全面や体制の都合により積極的な交流活動の企画、実施が難しい状況であったため社会と関わる経験や多様な人との関わりが不足している	図書館や児童館、公園などへのお出かけプログラムの充実を図る 他事業所との連携や合同イベントなど外部との関わりを取り入れていく
3	保護者同士の交流が少ない	保護者会を開催するも「仕事がある」「家族でかける」といった理由により参加が促せなかった 開催日程や、時間帯が保護者の方々と合っていないかった可能性があり、今後参加しやすいように柔軟な形にしていく	保護者面談については日程に幅を取って随時教室に来られる機会を増やすなどし、徐々に集まりやすくなる状況を準備していく おたよりに申し込み希望日などを掲載して促進する